

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度第4回八千浦区地域協議会

## 2 議題

### 【協議事項】

自主的審議事項について

## 3 開催日時

令和2年10月28日（水）午後6時30分から午後7時38分

## 4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）伊倉幹夫、笠原 武、  
笠原幸博、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一  
（欠席者2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、  
霜越会計年度任用職員

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【仲田会長】

- ・挨拶
  - ・会議録の確認：羽深委員、平野委員に依頼
- 議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

### 【小池係長】

- ・資料No.1 「八千浦区に関するデータ」
- ・資料No.2 「自主的審議の進め方について」
- ・資料No.3 「各区の自主的審議事項の取組状況」に基づき説明

八千浦区人口推移の平成21年、26年、令和元年の折れ線グラフを仲田会長より作成していただいたので、参考にしてほしい。

平成30年には、前期の委員が西ヶ窪浜海岸のごみの状況確認を行ったり、町内会長と各町内のごみに対する取組方について意見交換を行ったりした。その後も協議を重ねてきたが、すでに各方面でごみに対する取組を充分にしていることから「海岸線の道路及び海岸のごみ問題について」は審議終了とし、次回以降、地域協議会の中で委員が感じている地域の課題について意見交換を行い、テーマを検討することも一つの進め方かと思っている。

自主的審議の進め方について協議していただきたい。

#### 【仲田会長】

事務局から、今まで審議してきた「海岸線の道路及びごみ問題について」審議終了とし、次回以降、課題についての意見交換を行うとの提案があった。先にこの案件について意見を求める。

#### 【羽深委員】

今までの経緯は分からないが、どの程度進展しているかによると思う。結論を導くまでに相当かかるのか。或いは、ある程度結論を出しても良い状態なのかによるのではないかな。

海岸道路とごみ問題は昔から注目されているテーマなので、私は継続審議で進めたら良いと思っている。

#### 【仲田会長】

事務局に審議の進捗の説明を求める。

#### 【小池係長】

町内会長との意見交換では、各町内がどのようなクリーン活動を行っているか、市の生活環境課のパトロール状況の情報整理等をお話しし、課題を共有させていただいた。その上で、ごみを減らすためにはどのような取り組みをしたら良いのかと、議論を深めてきたが、地域協議会は実動部隊にはなれないため、具体的な取組も誰が動くのかという問題があった。

皆さんからいろいろ意見を出していただいたが、方向性が煮詰まったというところもあったかと思う。ただ、ごみ問題は今後もずっと続くテーマでもあるので、継続したらどうかということであれば、自主的審議事項として残しておき、話し合いを進めたいと思っている。

**【仲田会長】**

前期より継続している委員に今までの経過を踏まえて意見を求める。

**【渡辺孝三郎委員】**

ごみ対策として看板ほどの程度効果があったか分からないし、ごみ問題は八千浦区だけではなく、どこの海岸も酷い。そのため、他地区の状況がどのような対策をしているかも知りたい。

**【羽深委員】**

八千浦区だけの問題ではなく、他地区でも海岸のごみ問題は課題になっていると思うので、どのような問題があり、対策をどのようにして、その効果はどうだったかを聞きながら、八千浦区ではどういった取組をしていくかを協議してはどうか。

また、逆に結論が出ない案件もあるかと思うが、結論が出ないから途中でやめるというのは、最初から八千浦区地域協議会で審議ができる案件ではなかったという気がする。結局審議をしても結論が出ないからやめようというのもどうかと思うし、今までの経緯が分からないので、分からない中での発言で申し訳ないが、皆さんが関心を持っているテーマだと思うので、少しでも継続審議をしたら良いと思う。

**【柳澤委員】**

ごみ問題については、「八千浦地区明るいまちづくり協議会」の環境部の皆さんからご尽力いただいている。ごみがなくなるわけではないが、負けずに行っていかなければいけない。継続していけば少しは効果が出るのではないか。

**【仲田会長】**

八千浦区地域協議会の自主審議として意見を取りまとめ、市に対して八千浦区地域協議会が意見書等を出しても、海岸線の管理は新潟県が行っているため、市としては、八千浦区地域協議会から、こういう意見があったと伝える程度のことしかできない。

それから、もう1つは地域の住民が不法投棄をしているのかということ、おそらく圧倒的少数だと思っている。地域住民以外の人たちのごみの不法投棄が多いのではないか。それを取り締まるにはどうしたら良いか。

また、地域の町内会はもとより、海岸線環境美化促進協議会や他の団体が年に数回パトロールを行っている。そして、生活環境課が定期的なパトロールを含めて、大量に不法投棄があると通報があれば収集している。

議論の中では、ごみを不法投棄する人たちにどのように呼びかけるか。そして、ごみを少しでも少なくするためには、やはりモラルに訴えるということではないか。そうであればチラシや看板しかないのか。海岸線環境美化促進協議会が、チラシや看板を作って商店にチラシを置いて啓発活動を行えば一定程度の効果はあるが最終的に八千浦区地域協議会として何ができるのかとなると、なかなか結論が出にくい問題である。事務局が言うように自主的審議事項としては一旦審議終了とし、例えば、状況を見て経過報告を聞いたり、新たな課題として取り上げたりすることに問題はない。ただ、自主的審議事項として、さらに審議していくかについて、事務局がある程度、議論をしてきたことを踏まえて一旦終了と提案したのではないかと思う。

皆さんの意見は、どうか。

#### 【大島副会長】

この自主審議事項を提案したのは私である。西ヶ窪浜にはトイレがあり、訪れた方々にとっては非常に利用しやすく、たくさん人が集まる。駐車場も広く、無料で停められる。レジャー施設としては県外客にとって楽園のような場所なのではないか。金曜日の夜から泊まりで来る人もおり、その人たちが飲食をしている。八千浦区の海岸を利用してくれるのは人口が少なくなった八千浦区としては非常にありがたいことだが、きちんとモラルをもって使っていただければ、こちらとしてもおおいに歓迎だが、その辺が難しい。それで、頭打ちになっているのが現状である。

今期、新しく委員になられた人は、今までの経過が分からないと思うが、どこに問題を提起すれば良いのかが分からず頭打ちになったので、私としては審議終了で良いと思う。

#### 【笠原武委員】

私も町内のことも分かるし、八千浦区地域協議会の中の審議も分かるが、方向性が出ても、それに対しての具体的な解決策が出てこないこともあり、解決できたのかと言われれば不明である。

ただ、方向性とすれば八千浦区地域協議会では一応方向性は出たと思う。会長や大島副会長が言われたように、ここで一旦審議を打ち切り、海岸のごみ問題については新た

に別の問題が出た段階で、審議事項として上げれば良いと思う。

#### 【仲田会長】

当自主審議事項については、これから全く審議しないという話ではなく、結論が出にくい課題なので一旦審議を終了として、新たな課題、或いは状況変化によって今後取り上げることがあれば自主的審議事項に取り上げていくということによろしいか。

(賛同の声)

では、そのようにしたいと思う。

次に、事務局から資料No.1、2、3について説明を受けたが、私も皆さんへの問題提起になればと思い、グラフを作成したので見ていただきたい。

グラフは5歳刻みで、0歳から100歳までであるが、このグラフを見て何か感じ取っていただきたい。要は5年経つと5歳年を取る。そうすると、年毎にデータが平行線になっていけば人口動態としては自然減として人口減少という見方ができる。作成して驚いたのは、15歳から19歳、20歳から24歳、25歳から29歳の間のグラフが他の年齢層と比べると形態としておかしい。これが極端に5年後に動いていないということは、人がいなくなっていると見てとれる。例えば、30歳から50歳ぐらいのグラフでいくと平行線になっているが、15歳から19歳の赤のラインと5年後の黒のラインの年齢層にバラつきが出ている。ここで八千浦区に何があったのか。この年齢層で人口移動があったのか。それぞれ皆さんのお住まいの町内のことを考えていただけると、八千浦区の人口減少や若い人たちの生活環境、住みやすさ、働きやすさ等の糸口が何かつかめるのではないかと思い作成した。

これが資料No.1の平成12年から平成27年の世帯数や人口の動向を見ても、例えば平成17年から平成22年に世帯数は増えているが、5年後の平成27年には世帯数が落ちており、世帯数が落ちると人口も落ちる。この辺に何か鍵があるのではないかと思い作成してみた。該当する年に、こういうことがあったといった情報があれば自主的審議事項の何かのきっかけができるのではないか。

参考までに、平成17年の人口が4,353人。平成22年が4,281人、平成27年が3,973人、令和元年12月末で、3,800人と下降している。ところが世帯数は平成27年が1,396世帯、令和元年12月末では1,436世帯で40世帯増えている。人口は減っているが、世帯数は増えている。この辺が、15歳から29歳までの人たちの動きが何かあるのかということで見てもらえれば、きっかけがあるの

ではないかと思う。ちなみに市町村合併は平成17年である。

#### 【大島副会長】

私の子どもが、その年代である。どの学年もかなり少なかった年である。あと同級生が県外での就職や、結婚して県外に行ったという話は聞く。

#### 【仲田会長】

私が、黒のグラフを見て感じたのは、15歳から19歳、20歳から24歳は平行である。5年後そんなに大きな動きではない。ところが、25歳から29歳一気に減っている。25歳から29歳は進学、就職、転職、結婚等が出たり、地元勤め先がなかったりしたのか。私の周りにこの年代がないから分からないが、そういう動きがあったのかどうか。或いは八千浦区も含めて上越市に勤め先がなかったり、住みにくかったり等で資料のようなグラフの動態になったのか。特にこの黒（令和元年度）の減り方に何かご意見があれば、出していきたい。

#### 【笠原武委員】

私の周りをみると、子どもが就職しても地元へ帰ってこない人が多い。上越市から新潟市へ行って、結婚して新潟市で家を建てて、こっちへ帰ってこない。そういう人が非常に目立つ。私の孫も大学が終わったが、上越市に帰ってきてても仕事がないということで、やむを得ず新潟市で職を探して就職をする。

今現在のことを考えると上越市は、大学等が終わって上越市へ帰ってきてても、就職ができないというのが今の減少に繋がっているのではないかと思う。

#### 【羽深委員】

私の家の近所でも、私の子どもたちの時は通学班で14、5人いたが、今は小学生が1人もいない。ただ、世帯数は増えている。それは、核家族化しているということではないか。例えば、同じ八千浦区に住んでいたとしても、新しい団地、マンション、アパートがある。そちらに移っている人もいると思うが、ほとんど外に出ていると思う。

資料No.1に地区毎の人口の増減があるが、新道区が1番上で、次に有田区、春日区ということで人口が増えている。私の勤務先が藤野新田にあるが、道路を挟んで反対側が下門前や富岡とかなので、大きな団地がたくさんできており、藤野新田にも7階建てや8階建てのマンションが幾つも建っている。そういうところに、子どもが結婚して移ると思うので世帯数は増えている。

#### 【柳澤委員】

非常に身につまされるグラフだと思うが、他の地域でもこういう傾向はあるのか。

**【仲田会長】**

本日の配布資料に「人口・世帯に関する基礎データ集」があるが、この資料を見ると少子高齢化ということがすぐ分かる。

参考資料の折れ線グラフの15歳から30歳くらいの5歳刻みの動きがどうなっているかは分析してみないと分からないが、トータルで言えば少子高齢化が人口減少につながっていることは明らかである。ただ、それが地域特性なのか、家庭の事情なのか。いろいろな要素があると思うが、その辺を今日の議論も踏まえて、もう少し皆さんから意見を出していただきたい。

**【平野委員】**

黒（令和元年）も赤（平成26年）も緑（平成21年）とグラフにされているが、この間の年数はどうなっているのか。

**【仲田会長】**

そこまでは調べていない。上越市のホームページを見ると人口統計は5年分しかないが、八千浦区を見ると結構動きがある。動きはあるが、5年刻みでホームページに載っていたので5年刻みで比較をしてみたが、1年刻みで見ても、それなりの動きはある。だが、1年刻みだと参考資料のように極端になっていない。15歳は高校生で、25歳から29歳というと大学が終わって就職する頃である。一旦就職をして、例えば大学生の時に住所変更はしないが、勤めると住所変更をするから、住所要件として落ちる要素はある。住所は八千浦区にあるが、実際には市外や県外にいる。就職したら住所を移さなければいけないので、その時に住所を移す。そうすると人口統計からすれば減る。そういう実態も踏まえていけば、このグラフの推移も分からないことはないが、緑（平成21年）や赤（平成26年）の時は極端な落ち方をしていないのに、黒（令和元年）の時に何故極端な落ち方をするのか。何かあったのかという疑問が出てきた。

自主的審議事項は、地域の課題を整理して議論を深めて何か提案できるものがあれば、八千浦区地域協議会として委員間協議をして、一定程度の方向性を出すということである。このような生活環境から捉え方もあり、一つの課題を整理するのも良いのではないかと思い作成した。

**【平野委員】**

この年代の各年の進学率、就職率はどうだったのか。県外なのか、県内なのかを調べ

れば何か分かってくるような気がする。

**【大島副会長】**

私の子どもが学生の時にPTA役員をしていたので、学校の先生と話をする機会があった。私たちが中学校の時と大分様子が変わっていて、すごく高学歴になってきている。私は、高校を卒業したらすぐ地元就職したが、世の中の全体の流れで大学に行ったら、高収入の就職先が多い都会に人がどんどん流れている。一旦、就職をすると30歳ぐらいまで帰ってこない。30歳ぐらいになると実家があるから、いろいろ考えて戻ってくるという同級生もいた。

**【仲田会長】**

あくまでも問題提起なので、平野委員からも言われたように、例えば令和元年の15歳の子どもたちの動向よりも、令和元年の20歳や25歳になった子どもたちが、中学生、高校生、大学生の時にどういう動きがあったのか見れば分かるかもしれない。そういうことも含めて、それぞれ皆さん方から調査していただいて、次回、課題整理ができれば良いのかと思う。

**【小池係長】**

皆さんからいろいろなご意見をいただいたが、就職や進学で八千浦区を離れる若い人達が増えているのだと感じた。

次回の会議は12月に開催したいと考えている。今回は、八千浦区の課題はどのようなものがあるのかをフリートークのような形で意見交換できればと思っている。

**【仲田会長】**

今、事務局から話があったように、今日一つの物の見方として問題提起を投げかけただけなので、また違う視点で皆さんから考えていただき、次回もフリートークで課題整理に向けて進めていきたいと思っている。

**【小池係長】**

次回の協議会について、現在、諮問等の案件がないため、先ほど申し上げたとおり、12月中に自主的審議について協議を進めていただきたいと思っている。日程は会長と日程調整をして皆さんへ報告させていただく。

そして当初募集で提案されていた「やちほ文化展はまぐみ市事業」だが、「はまぐみ市」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。だが、やちほ文化展は開催させていただく予定となっているので報告させていただく。



【仲田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : [hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp](mailto:hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。